

管理職

部署のトップとして所管業務の決裁権を持ち、部署全体のマネジメントに能力を発揮します。

CAREER PATH

係員

定常的な手続や書類作成から現場の最前線まで、実務に携わりながら仕事の進め方の基礎を学びます。

係長

担当業務の責任者として業務の計画、検討や関係部署との調整を行います。部下の指導も大切な役割です。

課長補佐

様々な専門知識や経験を活かして、所管業務の総括的な調整役となって課長を的確にフォローします。

技官

事務官

係員

細井 舜

Hosoi Syun
平成28年入省
基本図情報部
画像調査課
機動撮影係 係員



私が所属する機動撮影係では、国土地理院保有の測量用航空機「くにかぜIII」に搭乗して、地図作成に必要な空中写真の撮影や災害時の被災状況を把握するための緊急撮影を行っています。あわせて撮影計画の作成や撮影後のデータの後処理、航空機の運航に必要な書類作成なども行っています。

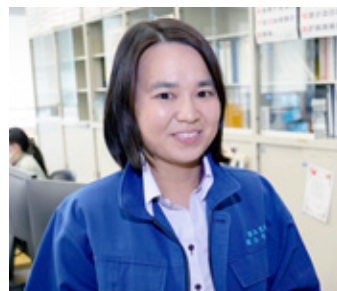
災害時には被災地の状況把握のため、迅速に撮影を行うことが求められます。そういった時でも個々の災害にあわせて適切な状況判断や撮影ができるよう平常業務や訓練に取り組んでいます。

日本全国が撮影対象なので出張も多く、休日当番もあって多忙ですが、上空から日本の国土を眺めたり、普段行けないような離島の撮影に行くことができたりと貴重な経験ができます。また、自分が撮影した空中写真が後世まで残り、災害からの復興や地図作成等に役立つことは、この仕事をしていく上での大きなやりがいです。

係長

三木原 香乃

Mikihara Kano
平成26年入省
測地部
宇宙測地課
調査専門職



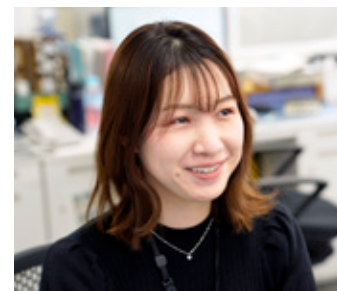
私は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）が運用する人工衛星「だいち2号」に搭載された合成開口レーダー（SAR）のデータを用いて日本全国の地殻変動を定期的に監視する業務を行っています。また、SARによる観測は昼夜・天候に関係なく、地上に観測機器もいないので、災害が発生した地域や山間部のような人が立ち入れない場所の地表の変化を確認することもできます。火山の噴火により新島が形成された西之島や福徳岡場でも定期的に解析を行い、地殻変動や島の形状の変化を確認しています。

係長になると、担当業務に対して「決める」機会が増えていきます。例えば、解析ソフトの改造は、業者と打合せをしながら細かい設定について調整し決めていきます。解析ソフトは業務で日常的に使うため、ここで決めた設定が業務の効率化や解析結果の高精度化に繋がります。もちろん、周りの職員や上司に相談しながら進めていきますが、これまでの業務で培った経験や過去の情報を参考にしながら、自身の作業に責任を持って業務を行うよう心がけています。

係員

神戸 里佳

Kanbe Rika
平成31年入省
総務部
会計課
審査係 係員



私は現在、会計課で職員に支払う旅費や請負測量作業の契約書類などの審査及び確認事務を主に担当しています。金額の確認はもちろんのこと、その経費区分、手続きや添付書類は法令に則って適切であるかなど、支出するための最終確認をしています。会計課は院内の職員とのやりとりが多いため、特に他部署の職員へ確認や協力依頼をする際は、丁寧に説明するなど日頃からコミュニケーションをよくとることが業務を円滑に進めるうえで大切だと感じました。また、常に業務に関する勉強をされている先輩や上司の姿を見て、根拠を持った対応をすることの重要さも実感しました。常に新鮮な気持ちで業務に取り組み、わからないことや気になることは、まず自分で考え、調べてから、上司へ確認をするよう心掛けています。手助けしていただくことが多々ありますが、先輩の皆さんから様々なことを吸収し、知識や経験を積み重ねて成長していくことが大切だと考えています。

係長

新見 基成

Niimi Motonari
平成12年入省
総務部
総務課
試験登録係 係長



「測量士」、「測量士補」の国家資格を取得するために必要となる試験の実施や資格の登録に関する業務を担当しています。測量士・測量士補試験は、受験希望者が2万人を超える規模の大きい試験ですが、運営していくうえで小さなミスもあってはなりません。そのため前年9月の受験案内の作成から始まって、7月の合格発表で終了するまで、業務期間中は常に緊張感があります。また、各種証明書の発行や電話対応などの窓口業務は、国民と直接に接することになるので、求められたことに速やかに、かつ柔軟に対応していく必要があります。そのためには、業務に関係する法令には留意しつつも、まずは国民目線で考えるということの日頃から心がけています。

現場の最前線で勤務する「係長」として、係のリーダーであるという自覚を持ち、何事にも主体的に取り組むとともに、後輩達に対しても模範的な職員でありたいと思います。

課長補佐

宮下 妙香

Miyashita Taeka
平成25年入省
応用地理部
地理情報処理課
課長補佐



防災・減災活動に役立てるため、自然災害の教訓を記した石碑等の自然災害伝承碑や、災害から命を守るために緊急的に避難をする指定緊急避難場所等の情報を整備し、提供しています。近年自然災害が多発していますが、これらの情報が活用され、国民の防災意識の向上や適切な避難行動につながることにやりがいを感じています。現役職では、内閣府や消防庁等の関係機関との調整や業務方針の検討等を行っており、相手の立場に立って考えること、業務の全体像把握に努めることを心掛けています。調整や、話し合いをする際には、相手の立場を踏まえ、理解することを忘れないようにしています。また、取組の過去の経緯や将来展望等、目先のことだけでなく業務全体を見るよう気をつけています。いずれも、上司や先輩方から教わったことです。言うは易く行うは難しで、反省と勉強の繰り返しですが、これからも日々の業務を大切にしていきたいと思っています。

管理職

川元 智司

Kawamoto Satoshi
平成18年入省
測地観測センター
電子基準点課
課長



電子基準点課では、電子基準点の維持管理、データ解析・提供、さらには技術開発まで、幅広い内容を扱っています。最新の技術動向を勉強しつつ、どうやったらもっと安定して運用できるか、解析の精度を上げられるか、考え続ける日々です。多くの施設・機材を扱うため、トラブルにも事欠きません。その対応方針を検討し、指示を行います。複数の係にまたがる対応となることも多く、課内の風通しを良くすることも課長の大事な役目です。

最新の衛星測位技術の動向についていくには他機関との連携も欠かせません。事業者と意見交換会により互いの問題意識を共有したり、昨年打上げられたみちびき初号機後継機の運用開始に向けて内閣府と密に打合せをしたりしながら、電子基準点での対応を進めています。

衛星測位の分野では次々に新しい技術が生まれます。安定した運用と新技術への対応、それらを両立させるのは大変ですが、やりがいのある仕事です。

課長補佐

東山 勇

Higashiyama Isamu
平成3年入省
基本図情報部
管理課
課長補佐



私は現在、主に地図を作成する部署である基本図情報部で事務の総括的な業務を担当しています。事務と一言で言っても、その内容は多岐に渡ります。例えば院内職員の勤務時間や健康の管理、部で行う事業の発注手続等々、いろいろな業務を日々行っています。

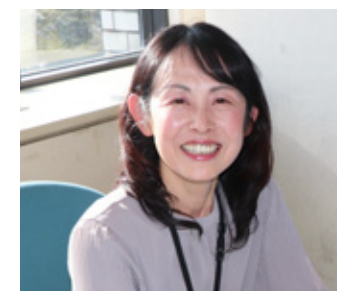
当部は予算規模が大きく職員数も多いため、業務量が多く大変なこともあります。一方で技術の仕事に直接触れられるのは総務部ではあまり経験できないので、長く勤務している私でも新鮮な気持ちで仕事ができます。

普段心掛けていることは、部内に対してアンテナを高くし、もし課題ができた場合にはすぐに対応すること、部内の人達とのコミュニケーションを日頃から積極的に取っていくことの二つです。それによって良好な信頼関係が築ければ、自然と仕事がしやすい環境になると思うのです。そんな、部下と上司を繋ぐ、現場と総務部を繋ぐ潤滑油としての役割を強く意識しています。

管理職

高木 美穂

Takagi Miho
昭和62年入省
東北地方測量部
管理課
課長



私は現在、東北地方測量部管理課で課内業務の総括のほか、部全体の業務に関わる調整や広報業務、健康管理業務などを担当しています。健康管理業務においては、今年度、職員のために何ができるかを検討し、メンタルヘルスの不調時に抵抗なく相談ができるようにカウンセリングを体験する企画を立案し、職員全員が実施しました。また、日頃からコミュニケーションを大切に、職員が上司に気軽に相談できるような職場づくりも心がけています。

国土地理院の職場は全国組織であり転勤もあります。私自身は、本院で子育てしながら一般事務や契約事務、福利厚生事務のほか、技術職の業務である古地理調査など様々な業務を経験することができました。現在、子育てが一段落したタイミングで単身赴任をしています。東北地方測量部では、事務や技術の職員と一緒に東北管内の地図や測量に関する業務を実施しています。これまでの様々な経験が現在の職場でも役立っていると感じています。

人事異動及び転勤

概ね2～3年で配属部署の異動があり、様々な業務を経験します。その中には、全国にある地方測量部への転勤や他機関への出向の機会もあります。人事異動は、職員一人ひとりの職務や勤務地についての希望や適性等を総合的に勘案して行われます。様々な業務を経験することによって職務のスキルやコミュニケーション能力の向上などが期待されます。

出向及び海外経験

国土交通省内の他機関、他省庁、独立行政法人、研究機関などに出向する機会があります。出向先で多様な行政分野を経験することで、幅広い見識や職務スキルなどを得ることができる重要な機会となります。このほか、南極地域観測隊への派遣や国際協力機構（JICA）を通じた測量分野の専門家としての海外派遣、在外研究員などの機会により海外で経験を積むことができます。